

第 2 回 検討委員会での主な意見とその対応について

日 時：令和 6 年 5 月 31 日（金） 13 時 30 分～15 時 30 分

場 所：富山県防災危機管理センター 5 F 研修室 5-A

出席者：石田委員、川本委員、瀬川委員、高野委員、八木委員、好川委員（五十音順）

主な意見	対応等
○県では今後リノベーションの事例を増やしていきたいとのことだが、実際に住み始めてからの耐震性能や断熱性能等についての意見等がわかれば、当委員会でも議論しやすい。	・入居者が決まれば意見を聞いてみたい。
○仮にパンフレットを作る場合、資料 2（ウェルビーイング住宅ってどんな家？）の内容だけではウェルビーイングや脱炭素化等の必要性が伝わってこない。県民が健康で安全に生活するためには、この住宅が絶対必要という具体的で熱いメッセージが必要。	・基本的な押さえるべきスペックを落とし込んだ「花」のイメージを通じた議論を踏まえて、消費者に刺さるポイントを選び出すとともに、そのポイントをキャッチーな言葉で訴える必要があると考える。
○環境省の「デコ活」の資料は、節減できる経費が数値で具体的に示されていて分かり易い。県も本気で取り組む姿勢を打ち出すことが重要。	・「デコ活」資料も参考に、富山型ウェルビーイング住宅（仮称）の概要をまとめた資料を作成する。
○性能水準を標準、推奨、チャレンジの 3 段階で設定しているが、特に推奨、チャレンジを推進していくためには、キャッチーなコピーを用いる等の工夫が必要ではないか。	・（同上）
○資料 2 のタイトルに「富山県の独自の」とあるが、ここにもう少し拘りをもってほしい。富山県らしい住まいのあり方を打ち出せば、県民により鮮明に伝わると思う。	・「デコ活」資料も参考に、富山型ウェルビーイング住宅（仮称）の概要をまとめた資料を作成する。
○新築住宅の性能水準について、レジリエンス性能として標準レベルに耐震等級 1 相当が設定されているが、これは建築基準法をクリアする最低限のレベルである。熊本地震ではこのレベルの住宅に倒壊や半壊といった被害が発生しており、このレベルでは繰り返しの地震に耐えられないというのがハウスメーカーの常識となっている。富山型ウェルビーイング住宅（仮称）が、安心・安全で長く住み続けられることを目標にするのであれば、長野県程度（×1.25、1.50）は必要ではないか。長期優良住宅の認定基準も耐震等級 2 以上となっている。	・性能水準を「チャレンジ」、「推奨」の 2 段階とし、それぞれの耐震性能を「等級 3」、「等級 2」に見直したい。
○制震、免震装置を配慮事項に追加することも検討してほしい。	・配慮項目に制震・免震装置を追加したい。
○ウェルビーイング住宅では、「標準」、「推奨」、「チャレンジ」の性能を確保すれば補助金が出るということか。	・基本的には性能水準を満たすものに対する支援を想定しているが、規模感等については引き続き検討したい。

<p>○県産材について、1 m³以上の使用を求めているが、見えない構造材より、床板等の仕上げ材に使用する方が県産材のPRに繋がる。</p> <p>○県産材が使いづらい場合もあるので、基本項目でよいのか、再検討してほしい。仕上げとして使う方法はあり得ると思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本項目に「富山らしさ」を設け、「景観的調和」、「伝統技術」、「県産材使用」から選択してもらう方法としたい。 ・基本項目にはなるが、仕上げ材での使用も想定することとしたい
<p>○補助金について、県産材や太陽光発電にはそれぞれ県の補助制度があり、併用することで全体の補助額を大きく見せる工夫ができて良いと思う。</p> <p>○耐震性能について、今は耐震等級2、3に対する県補助金がないと思うので、個人的に基準としては耐震等級2が妥当だと思うが、ハードルが高くなりすぎて補助が難しそうであれば耐震等級1相当にせざるを得ないとも思う。補助金額と等級レベルはバランスをみて検討すべき。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金制度を打ち出す際には、併用できる補助制度も一緒に案内したい。 ・能登半島地震により耐震に対する県民の関心も高いことから、耐震等級2以上に設定したい。
<p>○新築住宅は孫の代まで使うことを想定して建てられるべき。そのためには耐震性の確保は重要。</p> <p>○設備機器は後からでも対応できる。よって、一次エネルギー消費量の水準はここまで必要か。</p> <p>○気密性能を基本事項にすると、性能試験の負担が生じる。事業者の経験を信頼し、試験を不要にしても良いのではないか。</p> <p>○富山県がZEH Oriented（太陽光発電が必須でない）普及率で全国2位との報道があった。富山型ウェルビーイング住宅（仮称）が普及することで、結果として全国1位になってほしい。富山型ウェルビーイング住宅（仮称）の取組みが結果に現れてほしい。</p> <p>○長く使い続けるという観点から、高齢者配慮に関する項目が配慮事項にあっても良い。</p> <p>○レジリエンスの観点から、維持管理に関する項目が配慮事項にあっても良い。</p> <p>○健康（ヒートショック防止）の観点から、全館空調や熱交換換気方式に関する項目が配慮事項にあっても良い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新築住宅の耐震性能は等級2以上を設定したい。 ・カーボンニュートラル実現のための施策であるため一次エネルギー消費量の水準は定めることとしたい。なお、数値は今回見直したい。 ・性能の担保を得たく、測定試験を要件としたい。 ・太陽光発電については、カーボンニュートラル実現のための施策であるため基本的には導入を促進したい。なお、冬季の降雪といった地理的条件から難しい面もあるため、推奨の水準では「原則設置」とし、ZEH Orientedを認めることとするが、可能な限り設置を促していきたい。 ・高齢者配慮、維持管理、空調方式・換気方式を配慮項目に追加したい。 ・(同上) ・(同上)
<p>○ウェルビーイング住宅で、富山の特徴である気候、住居の特徴、高齢化率等を反映する数値設定が必要ではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後広報を勧めるうえで、引き続き検討したい。

<p>○また資料2の花を「チューリップ」にすればどうか。</p> <p>○富山県は湿度が高いというデータもある。そういった特徴を使って流れを作ることで、富山型を強調できるのではないか。</p> <p>○高齢になっても住みやすい住宅であることも重要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2に盛り込む。 ・富山型ウェルビーイング住宅（仮称）の概要をまとめた資料に盛り込む。 ・高齢者配慮を配慮項目に追加したい。
<p>○太陽光発電や県産材使用はオプションという認識で良いか。水準が高くなるにつれ住宅価格は上昇してしまう。</p> <p>○長く住み続けるためには、構造躯体や断熱性能を優先させるべき。</p> <p>○能登半島地震後、消費者は圧倒的に耐震に興味を持っている。長く住み続けるためには耐震性能が大事だということに県民が気付き始めたのではないか。予算の関係もあると思うが、耐震等級については再考していただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電については、カーボンニュートラル実現のための施策であるため基本項目としたい。なお、推奨の水準では原則設置とし、ZEH Oriented を認めることで配慮したい。 ・県産材使用については、基本項目に「富山らしさ」を設け、「景観的調和」、「伝統技術」、「県産材使用」からの選択として配慮したい。 ・構造躯体や断熱性能は最優先事項と認識している。 ・耐震性能は等級2以上を設定したい。
<p>○新築と全体改修の坪当たり単価を比較した場合、全体改修のコスト面でのメリットは少ない。全体改修のニーズはあまりないのではないか。しかし、モデルケースとして打ち出すのは有効。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新築に変わる選択肢としての普及を図る観点から、モデルケースとして打ち出していきたい。まだ少ないが、取り組む業者も出てきている。空き家対策としても期待している。また、ゾーン改修についても、基準を盛り込んでいきたい。
<p>○賃貸住宅の体験入居は非常に効果がある。しかし、周辺に断熱性能を持つ手ごろな価格の賃貸住宅がほとんどない。こういった取り組みを県で取組んでいただき、体験の機会を増やしてほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・賃貸住宅については、今後引き続き検討したい。
<p>○性能水準については、「標準」「推奨」「チャレンジ」の3段階を設けているが、住まい手がどう認識してセレクトするのか、県としてイメージを持っておく必要があるのではないか。2段階でも良いのかもしれない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・性能水準を「推奨」、「チャレンジ」の2段階に見直した。推奨は、少し頑張れば達成できるレベル、チャレンジは、カーボンニュートラル実現のために必要な水準を備えたモデル的なレベルと考えている。

<p>○普及を図るにはブランディングが重要。住まいは実際に住んでみないと良さがわからない。実際に経験した人の意見や感想を聞き、それを動画配信する方法が有効。ウェルビーイングな家の入居者へのインタビューや、供給者によるアンバサダー制度の活用といった方法もある。実績を地道に積み上げ、発信することにより、ブランディングを高めていくことが重要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・推進方策に現在考えられるものをまとめた。引き続き検討したい。
<p>○保険会社とのタイアップも考えられる。富山型ウェルビーイング住宅（仮称）に住むと病気になりにくいとか風邪をひきにくいので保険料が安くなるというもの。補助制度とは違うアピールが可能になる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・推進方策の一つの案として、引き続き検討したい。

アドバイザーからの意見について

日 時：令和6年6月4日（火） 16時00分～17時00分

場 所：WEB会議

相手方：竹内昌義（東北芸術工科大学デザイン工学部建築・環境デザイン学科長・教授）

第2回検討委員会の資料について意見を聴取

- カーボンニュートラルに寄与しないものをウェルビーイング住宅と謳ってはいけない。
- 太陽光発電の有効性について、実際北陸でも発電量はそれほど減らない。
- 断熱等級5やG1は全然温かくない。等級6あたりから誰もが違いを実感できる。ウェルビーイングと言える最低ラインは等級6だと思う。
- G2レベルであれば、太陽光発電（5kw）で、消費エネルギーも減り、快適さを感じられる。
- 樹脂サッシを使えば断熱等級6は比較的簡単。富山県の産業振興という観点からも、樹脂サッシを使って等級6を目指すのも良い。
- 性能水準は、標準をなくして2段階でよいと思う。
- 耐震等級1は目標にはならない。目標にするなら等級3。積雪を考慮した耐震性能が求められることを踏まえると、等級2でも納得できる。
- 補助金はそれほど重視しない。補助金がなくても普及していくことが望ましい。
- 鳥取県の認証制度は良い。地場の工務店は補助金よりも県のお墨付きをもらえることをメリットと捉えている。
- 地場の真面目な工務店がG2、G3をつくれるようになることはすごく良いこと。認証制度は地域の工務店、地場の産業にとって非常に大事だと思う。
- 富山県の住宅は大きいのが特徴なので、既存住宅の断熱改修は難しい。ゾーン断熱のようなものを富山県らしさとして打出してはどうか。
- 気密性能C値1.0はスケルトンにする（一旦、壁を取り払い、骨格だけにしてから改修する）ことが前提となる値。既存住宅の改修の場合1.0は難しい。もう少し下げるか表現を「目指す」にするなど、あまり厳しい基準でない方が良いと思う。
- 新築は厳しく、改修はゆるくくくらいが良い。窓を替える、内窓を入れるだけでも相当変わるので、そういったことの周知も必要。